

一般社団法人日本地域看護学会

2023 年度社員総会

- I. 日 時 2023 年 6 月 25 日（日）11：00～12：00
- II. 会 場 TKP 品川カンファレンスセンターANNEX 「カンファレンスルーム 5」
（〒108-0074 東京都港区高輪 3-13-1 TAKANAWA COURT 3F）

III. プログラム

1. 開会の辞
2. 議事録署名人の決定
3. 議題の承認
 1. 2022 年度事業報告について 【第 1 号議案】
 - 1) 全体報告
 - 2) 委員会報告
 - (1) 編集委員会
 - (2) 研究活動推進委員会
 - (3) 広報委員会
 - (4) 教育委員会
 - (5) 国際交流推進委員会
 - (6) 表彰論文選考委員会
 - (7) 災害支援のあり方検討委員会
 - (8) 実践促進委員会
 - (9) 次世代育成推進委員会
 - (10) 選挙管理委員会
 2. 2022 年度収支決算について 【第 2 号議案】
 3. 2022 年度監査報告について 【第 3 号議案】
 4. 2023・2024 年度事業計画について 【第 4 号議案】
 5. ユース会員設置に伴う定款の変更について 【第 5 号議案】
 6. 2023 年度収支予算について 【第 6 号議案】
 7. 2023～2024 年度理事・監事の選任について 【第 7 号議案】
 8. 名誉会員の推薦について 【第 8 号議案】
 9. その他
4. 新理事長のあいさつ・新役員の紹介
5. 第 26 回学術集会および第 27 回学術集会について
6. 意見交換
7. 閉会の辞

IV. 資 料

資料 1-1	2022 年度事業報告書（全体報告）	1
資料 1-2	2022 年度事業報告書（委員会報告）	4
資料 2	2022 年度収支計算書・財産目録・貸借対照表	20
資料 3	2022 年度監査報告書・監事所見	24
資料 4	2023・2024 年度事業計画書	27
資料 5	ユース会員設置に伴う定款の変更について	29
資料 6	2023 年度収支予算書	30
資料 7	2023～2024 年度役員候補者一覧	32
資料 8	名誉会員候補者一覧	33
資料 9	論文投稿に関する不正行為防止のためのガイドライン	34
資料 10	役員・社員名簿	37

一般社団法人日本地域看護学会 2022 年度事業報告書

I. 会員数

1. ブロック別会員数

2023 年 5 月 31 日現在

ブロック	都道府県	会員数
北海道・東北	北海道、青森、秋田、宮城、山形、福島、岩手	136
関東	群馬、茨城、栃木、千葉、埼玉、神奈川	331
東京都	東京都	158
甲信越・中部	静岡、愛知、岐阜、三重、福井、富山、石川、長野、山梨、新潟	281
関西	滋賀、大阪、京都、奈良、兵庫、和歌山	233
中国・四国	岡山、広島、島根、鳥取、山口、高知、香川、徳島、愛媛	136
九州・沖縄	福岡、佐賀、長崎、熊本、大分、鹿児島、宮崎、沖縄	113
	会員数合計	1,388

2. 経年会員数推移

総会報告時

年度	会員数	対前年度比	年度	会員数	対前年度比
1998	420	-	2011	1,286	94%
1999	569	135%	2012	1,298	100%
2000	695	122%	2013	1,312	101%
2001	794	114%	2014	1,339	102%
2002	918	115%	2015	1,417	105%
2003	935	101%	2016	1,404	99%
2004	976	104%	2017	1,441	102%
2005	1,068	109%	2018	1,438	99%
2006	1,128	105%	2019	1,424	99%
2007	1,172	103%	2020	1,413	99%
2008	1,241	105%	2021	1,405	99%
2009	1,265	101%	2022	1,396	99%
2010	1,360	107%	2023	1,388	99%

II. 事業報告

1. 理事会を 3 回開催した。

会議名	開催日・方法	主な議題
2022 年度 第 1 回理事会	2022 年 5 月 15 日 Zoom によるオンライン会議	2021 年度事業報告、決算・監査報告、2022 年度事業計画、予算、2022 年度以降の学会事務代行業務委託について、第 27 回学術集会長の選出、本学会誌掲載論文の不正疑いについて等

2022 年度 第 2 回理事会	2022 年 11 月 23 日 Zoom によるオンライン会議	第 26 回学術集会理事会セミナー企画（案）について、新型コロナウイルス特設サイトの縮小について、ユースプログラム（案）について、論文投稿に関する不正行為防止のためのガイドライン（案）について等
2022 年度 第 3 回理事会	2023 年 2 月 4 日 Zoom によるオンライン会議	2023 年度社員総会、2022 年度事業報告、中間決算報告、2022,2023 年度事業計画、予算、2022 年度表彰論文等

※その他、監査および委員会における会議（詳細は各委員会の報告書を参照）を適宜開催した。

2. 臨時理事会・メール審議等を実施した。

会議名	審議結果報告日	議題	結果
第1回 臨時理事会	2022年6月26日	本学会誌掲載論文の不正疑いに対する本学会の対応の最終結論について	全て、全会一致で承認された
第1回 メール審議	2022年7月5日	次世代育成推進委員会についての委員構成案について	全て、全会一致で承認された
第2回 メール審議	2022年8月12日	実践促進委員会についての委員構成案	全て、全会一致で承認された
第3回 メール審議	2020年9月21日	2022年度代議員・役員選挙スケジュールと構成メンバーについて	全て、全会一致で承認された
第2回 臨時理事会	2022年10月4日	第1回臨時理事会経過報告と議事録承認について	全て、全会一致で承認された
第4回 メール審議	2022年11月23日	8月10日協議（8/10）と第2回臨時理事会（10/4）の議事録案	全て、全会一致で承認された

3. 社員総会を 1 回開催した。

会議名	開催日・方法	主な議題
2022 年度 社員総会	2022 年 6 月 26 日 書面にて実施（オンラインにて報告）	2021 年度事業報告、決算・監査報告、2022・2023 年度事業計画、予算、名誉会員等

4. 会員報告会を第 25 回学術集会会期中に開催した。

5. 第 25 回学術集会を開催した。新型コロナウイルス感染症への対策により様々な制限がある中での 3 年ぶりの対面開催であった。

テーマ：地域生活者の健康と存在を護る地域看護のプロフェッション

—当事者・家族が普通に生活できる暮らしの場づくり—

学術集会長：田村 須賀子（富山大学学術研究部医学系地域看護学講座・教授）

会 期：2022 年 8 月 27 日（土）～8 月 28 日（日）／Web 開催 ～9 月 16 日（金）

参加者数：722 名

6. 日本地域看護学会誌第 25 巻第 1 号（2022 年 4 月 20 日発行）、第 2 号（2022 年 8 月 20 日発行）、第 3 号（2022 年 12 月 20 日）を電子体で発行した。

7. 地域看護学に関する研究活動を推進し、委員会セミナーをオンライン開催にて実施した。

研究セミナー（オンライン開催）

ライブ配信：2023 年 3 月 4 日（土）

オンデマンド配信：ライブ配信後準備が整い次第、3 月 21 日まで

タイトル：質的記述的研究とは何ぞや

—質的研究に関する 10 のキークエスチョンを基軸に学ぶ—

講 師：谷津 裕子氏（宮城大学看護学部 教授）

参加者：338 名（会員：226 名、大学院生：72 名、非会員：40 名）

8. 広報活動の一環として、全国市町特別区母子保健担当課 1,560 か所への広報・調査を実施した。
9. 地域看護学に関する教育のあり方について検討した。
10. 地域看護学に関する国際的な交流を行い、NEWS FROM JACHN No.22 を発行した。
11. 日本地域看護学会表彰制度を運営し、規程に基づき表彰論文の決定と名誉会員候補者の検討を行った。
 - 1) 優秀論文（1 編）

タイトル：原子力災害の備える保健活動に関するエスググラフィー；原子力発電所立地区域の市町村保健師の内情の開示（原著）

著 者：大森純子・川崎千恵・中野久美子・田口敦子・北出順子（敬称略）

巻 号：第 24 巻第 1 号
 - 2) 奨励論文（2 編）

タイトル：特定保健指導該当者を対象とした特定保健指導の利用阻害要因尺度の開発（原著）

著 者：赤堀八重子・齋藤 基・大澤真奈美（敬称略）

巻 号：第 24 巻第 2 号

タイトル：住民ボランティアの見守り対象高齢者数と見守り活動・見守り関連活動や活動満足感・負担感との関連（研究報告）

著 者：西 結香・池田直隆・河野あゆみ・岡本双美子（敬称略）

巻 号：第 24 巻第 1 号
 - 3) 名誉会員候補者：平野かよ子氏（宮崎県立看護大学 名誉教授）
12. 災害に対する支援のあり方を検討した。
13. 地域看護学における実践活動を促進した。
14. 地域看護学における次世代育成を推進した。
15. 看護系学会・公衆衛生関連学協会との連携を進め、活動に参画した。
16. 選挙管理委員会を設置し、代議員・役員選挙を実施した。

編集委員会

1. 委員構成

委員長	永田	智子（慶應義塾大学）
副委員長	蔭山	正子（大阪大学高等共創研究院）
委員	有本	梓（横浜市立大学大学院）
	和泉	比佐子（神戸大学大学院）
	井手	知恵子（大分大学）
	上野	まり（日本在宅ケア教育研究センター）
	尾崎	章子（東北大学大学院）
	表	志津子（金沢大学）
	亀井	智子（聖路加国際大学大学院）
	田口	理恵（共立女子大学）
	都筑	千景（大阪公立大学大学院）
	西嶋	真理子（愛媛大学大学院）

2. 2022 年度活動報告

1) 委員会開催

(1) 第 1 回委員会

日 時：2022 年 6 月 7 日（土）10:30～13:00

形 態：Zoom によるオンライン会議

出席者：永田、蔭山、有本、和泉、井手、上野、尾崎、表、亀井、田口、西嶋

内 容：理事会報告

継続中の論文の審査状況について

新規投稿論文の編集委員・査読委員について

第 25 巻第 2 号の掲載予定論文および依頼原稿等について

優秀査読者賞について

委員会活動計画について

拡大編集委員会の開催について 等

(2) 第 2 回委員会

日 時：2022 年 10 月 11 日（土）15:00～17:00

形 態：Zoom によるオンライン会議

出席者：永田、蔭山、有本、和泉、井手、上野、表、都筑、西嶋

内 容：拡大編集委員会報告

継続中の論文の審査状況について

新規投稿論文の編集委員・査読委員について

第 25 巻第 3 号の掲載予定論文および依頼原稿等について

巻頭言・編集後記の執筆者について

編集委員会企画連載について

優秀査読者賞の選出について

研究不正防止ガイドラインについて

投稿を促進するための方策について 等

(3) 第 3 回委員会

日 時：2023 年 2 月 1 日（水）18:00～20:00

形 態：Zoom によるオンライン会議

出席者：永田、蔭山、有本、和泉、井手、上野、尾崎、表、亀井、田口、都筑、西嶋

内 容：理事会報告

継続中の論文の審査状況について
 新規投稿論文の編集委員・査読委員について
 第 26 巻第 1 号の掲載予定論文および依頼原稿等について
 優秀査読者賞の経過について
 研究不正防止ガイドラインについて
 投稿を促進するための方策について 等

(4) 2023 年度第 1 回委員会

日 時：2023 年 6 月 5 日（月）18:00～20:00

形 態：Zoom によるオンライン会議

出席者：未定

内 容：理事会報告

継続中の論文の審査状況について
 新規投稿論文の編集委員・査読委員について
 投稿を促進するための方策について 等

2) 2022 年度拡大編集委員会

日 時：2022 年 8 月 27 日（土）16:30～17:30

形 態：富山国際会議場における現地開催および Zoom によるハイブリッド開催

内 容：第 9 期編集委員会活動方針および 2022 年度活動計画について

投稿規程について

投稿論文作成チェックリストについて

投稿から掲載までの流れについて

投稿論文の動向について

第 3 回優秀査読者賞の報告 優秀査読者：別所遊子、岩村龍子

3) 日本地域看護学会誌の発行

(1) 第 25 巻第 1 号 発行 日：2022 年 4 月 20 日

掲載論文：原著 2、総説 1、研究報告 1、資料 1、
 編集委員会企画連載 1、NEWS FROM JACHN No.21

(2) 第 25 巻第 2 号 発行 日：2022 年 8 月 20 日

掲載論文：研究報告 3、地域看護活動報告、資料 1、委員会報告、
 学会だより

(3) 第 25 巻第 3 号 発行 日：2022 年 12 月 20 日

掲載論文：研究報告 5、第 25 回学術集会報告、
 編集委員会企画連載 1、委員会報告

(4) 第 26 巻第 1 号 発行 日：2023 年 4 月 20 日

掲載論文：原著 1、研究報告 7、資料 2、委員会報告、
 NEWS FROM JACHN No.22

3. 2023 年度活動計画（案）

- 1) 編集委員会を開催する（年 3 回）。
- 2) 拡大編集委員会を開催する。
- 3) 学会誌を 3 号発行し（第 26 巻第 1～3 号）、J-STAGE で公開する。
- 4) オンライン投稿査読システムを運用し、評価する。
- 5) 「優秀査読者賞」の選考および授賞を行う。
- 6) 「研究論文投稿に関する不正行為防止のためのガイドライン」および関連する内容の周知を図る。
- 7) 論文投稿の促進に向けた対応を行う。
- 8) その他本学会の目的に必要な事業の推進を図る。

研究活動推進委員会

1. 委員構成

委員長	大森	純子（東北大学大学院）
副委員長	和泉	京子（武庫川女子大学）
委員	北岡	英子（湘南鎌倉医療大学）
	平野	美千代（北海道大学大学院）
	松永	篤志（東北大学大学院）
	持田	恵理（大泉町役場）
	山下	留理子（徳島大学大学院）

2. 2022 年度活動報告

1) 研究活動推進委員会会議の開催

(1) 第 1 回

日 時：2022 年 9 月 12 日（月）18:30～20:00

場 所：Zoom によるオンライン会議

参加者：大森純子、和泉京子、北岡英子、平野美千代、松永篤志、持田恵理、山下留理子
国井由生子（株式会社ユピア）、小嶋亜紀子（株式会社ユピア）

欠席者：持田恵理、山下留理子

議 事：①活動計画、予算について、②前回の研究セミナーの振り返り、
③今年度のセミナー開催の検討、④役割分担、⑤その他

(2) 第 2 回

日 時：2023 年 2 月 3 日（金）18:30～19:30

場 所：Zoom によるオンライン会議

参加者：大森純子、和泉京子、北岡英子、平野美千代、松永篤志、持田恵理、山下留理子
谷津裕子（講師）、国井由生子（株式会社ユピア）、小嶋亜紀子（株式会社ユピア）

議 事：①今年度の研究セミナーの進行の打合せ、②その他

2) 研究セミナーの実施

日 程：ライブ 2023 年 3 月 4 日（土）10:00～12:00、オンデマンド：3 月 21 日（火）まで

タイトル：質的記述的研究とは何ぞや—質的研究に関する 10 のキークエスションを基軸に学ぶ
講 師：谷津 裕子氏（宮城大学 教授）

申込受付期間：2023 年 1 月 13 日（月）～2 月 19 日（日）

参 加 者：338 名（会員：226 名、大学院生：72 名、非会員：40 名）

3) その他、会員の研究活動を推進するための活動

- ・2021年度研究セミナー（2021年3月実施）の内容を配布資料（抜粋）とともに学会誌に掲載
- ・研究セミナー動画アーカイブ設置についてメリットとデメリットを検討

3. 2023 年度活動計画（案）

- 1) 研究活動推進委員会主催の研究セミナーを企画する委員会を開催する。
- 2) 2023年度研究セミナー（2024年3月実施）をオンラインにて実施する。
- 3) その他、会員の研究活動を推進するための活動を行う。
 - ・2022年度研究セミナー（2023年3月実施）の内容を学会誌に掲載する。
 - ・研究セミナー動画アーカイブ設置に関する検討を継続する。

広報委員会

1. 委員構成

委員長	田村 須賀子（富山大学）
副委員長	安田 貴恵子（長野県看護大学）
委員	酒井 久美子（長野県看護大学）
	陶山 公子（富山大学）
	新村 順子（東京都医学総合研究所）
	長谷川 美香（福井大学）
	平澤 則子（長岡崇徳大学）

2. 2022 年度活動報告

1) 委員会開催

(1) 第 1 回委員会（2022 年 8 月 8～10 日 メール会議）

内 容：学会 HP「新型コロナ特設サイト」縮小案について

(2) 第 2 回委員会（2022 年 11 月 7 日（月）17:00～18:00 Zoom による Web 会議）

内 容：①2021 年度活動報告と 2022 年度活動計画について、②今年度の関連団体・機関への広報活動について、③学会 HP「新型コロナ特設サイト」縮小案について

(3) 第 3 回委員会（3 月 20～31 日 メール会議）

内 容：全国市町特別区母子保健担当課を対象としたアンケート結果の集約と第 26 回学術集会に向けた広報活動の評価、今後に向けた企画検討

2) ホームページの内容の確認と充実

掲載内容の確認を定期的（月 1 回）に行った。

3) 全国市町特別区母子保健担当課保健師に対する調査・広報活動

第 26 回学術集会に向けて：全国市町特別区母子保健担当課 1,560 か所（2022 年 12 月 1 日現在）を対象に、学術集会の案内チラシとともに質問紙を郵送し、情報保護シール貼付はがきにて回答を得た。なお依頼文には「学会入会の QR コード」「学術集会演題受付領域リスト」を載せた。調査期間は 2023 年 2 月 10 日～3 月 10 日、回収数 204（回収率 13.1%）、有効回答数 202。全国市町特別区母子保健担当課では、「子ども家庭庁」「子ども家庭センター」設置を前に、「乳幼児健診、1 歳 6 か月児健診、3 歳児健診における発達遅滞の見つけ方・関わり方」「発達障がい、ジョブローテーションの心がまえ、思春期・子どもの自殺対策、ゲーム依存と不登校」等について関心があった。学術集会に参加するときの動機には、「保健師活動のヒントや刺激を得るため」「プログラム内容に関心があること」「母子保健・子育て支援の最新情報を得るため」の回答が多かった。学術集会参加では、「仕事と自己研鑽（職場で予算をとることは難）の両立や保健活動に対数する意欲をあげる取り組みがあったらいい」「オンデマンド配信ですと参加しやすい」「ハイブリッド開催・参加費用の負担軽減」等の希望も記載されていた。

3. 2023 年度活動計画（案）

1) ホームページの内容の確認と充実

定期的に広報委員が交代で HP を確認し、早急な更新と内容の検討を行う。

必要事項は委員会で検討し理事会に諮り進める。

2) 広報を通じた会員サービスの拡充と会員獲得戦略

委員会で課題整理と対応策を検討し理事会に提案する。

3) 地域で実践する看護職に対する広報活動

全国市町村特別区地域包括ケア担当課 1,741 か所

（参考）2022 年全国市町特別区母子保健担当課、2021 年：地域包括支援センター、2020 年公的病院地域連携室、2019 年看護学校

4) その他必要な事項

教育委員会

1. 委員構成

委員長	岸 恵美子（東邦大学大学院）
副委員長	大木 幸子（杏林大学）
委員	秋山 正子（株式会社ケアーズ白十字訪問看護ステーション）
	石橋 みゆき（千葉大学大学院）
	大宮 朋子（筑波大学）
	草野 恵美子（大阪医科大学）
	斉藤 恵美子（東京都立大学大学院）
	佐藤 紀子（千葉県立保健医療大学）
	諏訪部 高江（訪問看護ステーションけせら）
	藤原 和美（東邦大学）

2. 2022 年度活動報告

1) 委員会の実施

(1) 第 1 回教育委員会

日 時：2022 年 9 月 29 日（木）18:30～20:00

方 法：Zoom によるオンライン会議

参加者：秋山 正子、石橋みゆき、大木 幸子、岸 恵美子、草野恵美子、斉藤恵美子、
佐藤 紀子、諏訪部高江、藤原 和美（敬称略）

議 事：①理事会報告・会員報告会の情報共有

②今年度事業計画と役割分担

③地域看護学会の再定義を踏まえ、育てたいナース像の見える化の検討

④「地域看護の教育内容と方法」の評価について

(2) 第 2 回教育委員会

日 時：2022 年 11 月 17 日（木）18:30～20:30

方 法：Zoom によるオンライン会議

参加者：石橋みゆき、大木 幸子、岸 恵美子、草野恵美子、斉藤恵美子、佐藤 紀子、
諏訪部高江、藤原 和美（敬称略）

議 事：①理事会報告の情報共有

②学術集会における他学会とのコラボ企画について

③ポンチ絵デザインの委託について

④地域看護学の概念整理

⑤今後のスケジュールおよび方向性についての検討

(3) 第 3 回教育委員会

日 時：2023 年 1 月 23 日（月）18:30～20:30

方 法：Zoom によるオンライン会議

参加者：石橋みゆき、岸 恵美子、草野恵美子、斉藤恵美子、佐藤 紀子、諏訪部高江、
藤原 和美（敬称略）

議 事：①理事会報告の情報共有

②学術集会における他学会とのコラボ企画について

③ポンチ絵デザインの委託について

④地域看護学の概念整理

⑤今後のスケジュールおよび方向性についての検討

3. 2023 年度活動計画（案）

- 1) 地域看護学とは何かを、地域看護学会として目指す看護師像を視野に入れた、地域看護学を教授する上で活用できるツールとして図（ポンチ絵）等で見える化する。
- 2) 学術集会等での他学会とのコラボ企画により、地域看護学と関連分野での情報共有、地域看護学の周知をはかる。
- 3) 「地域看護の教育内容と方法」の評価方法を検討する。

国際交流推進委員会

1. 委員構成

委員長	小西 かおる（大阪大学大学院）
委員	岡本 玲子（大阪大学大学院）
	成瀬 昂（SOMPO インスティテュートプラス株式会社）
	藤本 優子（大分県立看護科学大学）
	山本 なつ紀（慶應義塾大学）

2. 2022 年度活動報告

1) 英文ニュースレターの発行

- ・ NEWS FROM JACHN No.22（学会誌第 26 巻第 1 号掲載）の発行に向けて、掲載内容および執筆者を確定し、原稿の執筆依頼を行った。
- ・ 内容は、地域看護学定義に基づく 2040 リサーチアジェンダ 24、論文表彰者のメッセージ、第 7 回 ICCHNR 国際学会参加報告、今後の関連国際学会の情報などを掲載する。

2) 必要に応じて、国際的な研究交流や学術交流に有用な情報の提供

- ・ 第 7 回 ICCHNR 国際学会、について、第 7 回 WANS 国際学会について、メールマガジンを通じて会員内外に広報した。
- ・ WANS 理事会（2022 年 11 月 22 日）に参加した。

3) 第 1 回委員会の開催

日 時：2022 年 10 月 26 日（金）17:00～18:00

場 所：オンライン会議

参加者：小西委員長、岡本委員、藤本委員、成瀬委員、山本委員

内 容：英文ニュースレター企画ほか

3. 2023 年度活動計画（案）

- 1) NEWS FROM JACHN No.23 を発行する。
- 2) 必要に応じて、国際的な研究交流や学術交流に有用な情報を提供する。
- 3) 委員会を年 1 回、開催する。

表彰論文選考委員会

1. 委員構成

委員長	北山 三津子（岐阜県立看護大学）
副委員長	永田 智子（慶應義塾大学）
委員	上野 昌江（四天王寺大学）
	蔭山 正子（大阪大学高等共創研究院）
	金子 仁子（東京情報大学）

2. 2022 年度活動報告

1) 活動目的

- (1) 日本地域看護学会誌に掲載された優れた論文について、規程に沿って、「優秀論文賞」および「奨励論文賞」（以下、表彰論文）を選考する。
- (2) 日本地域看護学会に多大な寄与をした者の中から、規程に沿って、日本地域看護学会名誉会員（以下、名誉会員）候補者を選考する。
- (3) 日本地域看護学会「表彰論文」ならびに「名誉会員」にかかわる、その他必要な事業等を推進する。

2) 活動報告

- (1) 委員会の開催
委員会を 1 回開催した（2023 年 1 月 27 日）。
- (2) 2022 年度表彰論文について
規程に基づき、学会誌第 24 巻第 1～3 号に掲載された論文を対象に、理事・代議員による投票結果を踏まえ、独創性、新規性、学術的発展性、実践的有用性の観点から審議の上、表彰論文の選考を行った。
- (3) 2022 年度名誉会員候補者について
規程に基づき、名誉会員候補者について検討を行った。
- (4) その他、本事業の充実に向けて
学会 HP 上に表彰論文選考理由および受賞者の声を掲載した。また、学術集会において受賞論文の掲示を行った。

3. 2023 年度活動計画（案）

- 1) 学会誌第 25 巻に掲載された優れた論文について、規程に沿って、表彰論文を選考する。
- 2) 日本地域看護学会に多大な寄与をした者の中から、規程に沿って、名誉会員候補者を検討する。
- 3) 日本地域看護学会「表彰論文」ならびに「名誉会員」にかかわる必要な事業等を推進する。

災害支援のあり方検討委員会

1. 委員構成

委員長	春山 早苗（自治医科大学）
副委員長	安齋 由貴子（宮城大学）
委員	石田 千絵（日本赤十字看護大学）
	岩村 龍子（和歌山県立医科大学）
	奥田 博子（国立保健医療科学院）
	小寺 さやか（神戸大学大学院）
	島田 裕子（自治医科大学）

2. 2022 年度活動報告

1) 活動目的

本学会としての災害支援のあり方を検討する。

具体的には

- ・災害対策に関わる情報や被災地の保健師活動についての情報を収集し、それに基づいて地域看護の実践・教育・研究のあり方を考える機会をつくっていく
- ・日本看護系学会協議会 災害における看護の学会連携ネットワーク等を通して、他学会と連携していく

2) 活動報告

(1) 委員会開催

< 第 1 回委員会 >

日 時：2022 年 8 月 8 日（月）17:00～18:30

開催方法：Zoom

出席者：春山、安齋、石田、岩村、奥田、小寺、島田

内 容：・第 25 回学術集会ワークショップについて 役割分担等
・今年度の活動計画について
・その他

< 第 2 回委員会 >

日 時：2023 年 2～3 月開催予定

開催方法：Zoom

出席者：春山、安齋、石田、岩村、奥田、小寺、島田

内 容：・今期の活動の振り返り
・次年度の活動計画案の検討
・その他

(2) 第 25 回学術集会におけるワークショップの開催

テーマ：ウィズコロナ・ポストコロナ時代の地域と学校・職域との連携
～人々の健康と生活を護る地域看護のあり方とは～

日 時：2022 年 8 月 27 日（土）14:30～16:00

目的：ニューノーマルに伴う健康課題に対応するための、地域と学校・職域との連携・協働による取組について話題提供し、参加者間での意見交換を通して、ウィズコロナ・ポストコロナ時代における地域看護のあり方を考える機会とすること

内 容：・コロナ下における働く人々の健康課題に対応するための地域と職域との連携・協働の実際
・コロナ下における子どもたちの健康課題に対応するための地域と学校との連携協働の実際

- ・コロナ下において悩みや課題を抱える子どもたちを支える看護学生によるピア活動

参加者：27名

(3) 健康危機に関わる情報や地域看護に従事する看護職の活動についての情報収集及び発信

- ・昨年度実施した健康危機管理の教育方法に関する調査の結果を含めた第 24 回学術集会ワークショップ（2021 年度）の内容を委員会報告として学会誌に投稿した。

（学会誌 25(2)：48-56）

- ・今年度実施したワークショップの内容を話題提供者の協力も得て、委員会報告として学会誌へ投稿予定。

3. 2023 年度活動計画（案） ＊第 2 回委員会で検討予定

- 1) 委員会の開催（年 2 回）
- 2) 健康危機に関わる情報や地域看護に従事する看護職の活動についての情報収集
- 3) その他

実践促進委員会

1. 委員構成

委員長	大木	幸子（杏林大学）
副委員長	秋山	正子（認定 NPO 法人マギーズ東京センター）
委員	和泉	京子（武庫川女子大学）
	都筑	千景（大阪公立大学大学院）
	中村	順子（ホームホスピス秋田訪問看護ステーション）
	日根野	萌（順天堂大学医学部附属練馬病院）
	平澤	則子（長岡崇徳大学）

2. 2022 年度活動報告

1) 委員会開催

(1) 第 1 回委員会

日 時：2022 年 9 月 5 日（月）18:00～20:00

方 法：Zoom による Web 会議

内 容：①本委員会の設置の経緯と委員会の目的の共有

②今年度の検討課題である「現場の会員の実践活動の促進にむけて魅力的な学会となるための活動」についての協議

③今年度の委員会活動のスケジュールの検討

(2) 第 2 回教育委員会

日 時：2022 年 9 月 30 日（金）18:30～20:30

方 法：Zoom による Web 会議

内 容：①今年度の検討課題の検討方法についての協議

②実践活動の促進にむけた学会の活動について意見交換

③実践者へのヒアリング調査方法の検討

(3) 第 3 回委員会

日 時：2022 年 10 月 11 日（火）18:30～20:00

方 法：Zoom による Web 会議

内 容：①今年度の検討課題の検討方法についての協議

②実践活動の促進にむけた学会の活動について意見交換

③実践者へのヒアリング調査方法の検討

(4) 第 4 回委員会

日 時：2022 年 12 月 1 日（金）18:30～20:00

方 法：Zoom による Web 会議

内 容：①ヒアリング進捗状況の共有

②実施済みのヒアリング調査結果の共有

③実践現場にとっての不利益
調査結果の共有

(5) 第 5 回委員会

日 時：2023 年 1 月 17 日（火）18:30～20:00

方 法：Zoom による Web 会議

内 容：①実施済みのヒアリング調査結果のまとめ

②実践活動の促進にむけた学会の活動について意見交換

2) 実践者へのヒアリング調査の実施

(1) 目 的

実践活動促進のための学会活動を検討するために、「地域看護」にかかわる実践者に対し

て、①少子高齢化が進むこれからの時代の実践活動の課題・関心テーマ、②実践の場で学会に期待することについて、聞き取りを行う。

(2) 対 象

- ①地域包括支援センター看護職：4人
- ②行政機関保健師：5人
- ③退院支援部門看護師：2人
- ④訪問看護ステーション看護職：1人

(3) 方法と内容

以下の2点についてオンラインにて、所属属性単位のグループでインタビューを実施した。

- ①少子高齢化が進むこれからの時代の実践活動の課題・関心テーマ
- ②実践の場で学会に期待すること

3. 2023 年度活動計画（案）

- 1) 2022 年度に検討した「実践促進活動案」のうち、実践者のネットワークづくりを目的とした交流会については、学術集会等において実施し、実践者の学会活動への新規参加を促す。
- 2) 「実践促進活動案」のうち他の委員会と関連する事項について、理事会及び関連委員会と協議しながら、活動体制および活動方法の検討を行う。
- 3) 実践現場に所属する新規会員の声を収集する仕組みを検討する。

次世代育成推進委員会

1. 委員構成

委員長	蔭山	正子（大阪大学高等共創研究院）
副委員長	石丸	美奈（千葉大学大学院）
委員	川崎	涼子（長崎大学）
	板谷	智也（金沢大学）
	松永	篤志（東北大学大学院）
	成瀬	昂（SOMPO インスティテュートプラス株式会社）
	松井	理恵（群馬大学大学院）

2. 2022 年度活動報告

1) 会 議

5 回開催（2022/7/19, 9/6, 11/2, 2023/1/16, 5/22）

2) YouTube はじめました配信

4 回配信した。時間帯はいずれも 12:15～12:45 とし、30 名程度の参加があった。

第 1 回 10 月 3 日（月）テーマ「なぜ YouTube をはじめるのか？」

第 2 回 10 月 11 日（火）テーマ「2040 リサーチアジェンダ 24 について」

第 3 回 10 月 19 日（水）テーマ「なぜ学会に入るのか？ 学会のメリットって？」

第 4 回 10 月 27 日（木）テーマ「なぜ学会に入るのか？ 学会のメリットって？ パート 2」

3) LINE オープンチャット「地域看護の次世代を考えるグループ」開設

参加者 17 名

国際学会発表、英文誌投稿に関する困りごとなどについて情報共有

4) 地域看護次世代育成トークチャンネル

第 1 回 2023 年 2 月 15 日（水）20～21 時

テーマ「研究成果の発信のときにモヤモヤマゴマゴすること」

第 2 回 2023 年 3 月 16 日（木）20～21 時

テーマ「新人保健師のお悩み共有！ それ！ 私も悩んでいます！」

第 3 回 2023 年 5 月 9 日（火）20～21 時

テーマ「実践のモヤモヤを研究にする」

方法：YouTube のライブ配信、日本地域看護学会の YouTube チャンネルにて公開

視聴回数：第 1 回 262 回、第 2 回 286 回、第 3 回 90 回（2023 年 5 月 22 日時点）

5) 保健師ジャーナルへの寄稿

2023 年 2 月号掲載

タイトル：日本地域看護学会次世代育成推進委員会による LINE オープンチャット「地域看護の次世代を考えるグループ」開設の狙いと展望

6) 英文ニュースレター原稿執筆

NEWS FROM JACHN No.22 掲載

タイトル：日本地域看護学会定義に基づく 2040 リサーチアジェンダ 24

7) 日本地域看護学会誌への委員会報告投稿

第 26 巻第 1 号掲載

3. 2023 年度活動計画（案）

1) LINE オープンチャット「地域看護の次世代を考えるグループ」（仮）開設、運営

2) YouTube 配信企画

3) 学術集会ワークショップ開催

4) 地域看護関連のショート動画作成

選挙管理委員会

1. 委員構成

委員長	小西 かおる（大阪大学大学院）
副委員長	石橋 みゆき（千葉大学大学院）
委員	岩瀬 靖子（千葉大学大学院）
	坂井 文乃（千葉大学大学院）

2. 2022 年度代議員選挙

1) 開票結果

ブロック	選挙人人数	定数	投票数	投票率
北海道・東北	112	6	35	31.3%
関東	275	16	63	22.9%
東京都	125	8	24	19.2%
甲信越・中部	255	15	60	23.5%
関西	198	12	44	22.2%
中国・四国	121	7	38	31.4%
九州・沖縄	99	6	35	35.4%
合計	1,185	70	299	25.2%

2022 年 11 月 28 日開票

2) 当選代議員一覧

(敬称略・50 音順)

ブロック	No.	氏 名	代議員選挙告示時の所属
北海道・東北 (定数:6 人)	1	安齋 由貴子	宮城大学
	2	大森 純子	東北大学大学院
	3	田高 悦子	北海道大学大学院
	4	野村 陽子	名寄市立大学
	5	平野 美千代	北海道大学大学院
	6	吉田 礼維子	天使大学
関東 (定数:16 人)	1	荒木田美香子	川崎市立看護大学
	2	有本 梓	横浜市立大学大学院
	3	安藤 智子	千葉科学大学
	4	石橋 みゆき	千葉大学大学院
	5	石丸 美奈	千葉大学大学院
	6	大澤 真奈美	群馬県立県民健康科学大学
	7	奥田 博子	国立保健医療科学院
	8	佐藤 紀子	千葉県立保健医療大学
	9	佐藤 由美	群馬大学大学院
	10	田口 敦子	慶應義塾大学
	11	長江 弘子	亀田医療大学
	12	永田 智子	慶應義塾大学
	13	春山 早苗	自治医科大学
	14	細谷 紀子	千葉県立保健医療大学
	15	宮崎 美砂子	千葉大学大学院
	16	守田 孝恵	獨協医科大学

ブロック	No.	氏 名	代議員選挙告示時の所属
東京都 (定数:8 人)	1	秋山 正子	株式会社ケアーズ白十字訪問看護ステーション
	2	麻原 きよみ	聖路加国際大学
	3	石田 千絵	日本赤十字看護大学
	4	大木 幸子	杏林大学
	5	亀井 智子	聖路加国際大学大学院
	6	岸 恵美子	東邦大学大学院
	7	斉藤 恵美子	東京都立大学大学院
	8	鈴木 良美	東京医科大学
甲信越・中部 (定数:15 人)	1	石垣 和子	石川県立看護大学
	2	表 志津子	金沢大学
	3	門間 晶子	名古屋市立大学
	4	北山 三津子	岐阜県立看護大学
	5	佐伯 和子	富山県立大学
	6	坂本 真理子	愛知医科大学
	7	巽 あさみ	人間環境大学大学院
	8	田村 須賀子	富山大学
	9	西出 りつ子	三重大学大学院
	10	平澤 則子	長岡崇徳大学
	11	松下 光子	岐阜県立看護大学
	12	安田 貴恵子	長野県看護大学
	13	柳澤 理子	愛知県立大学
	14	山崎 洋子	健康科学大学
	15	山田 洋子	岐阜県立看護大学
関西 (定数:12 人)	1	和泉 比佐子	神戸大学大学院
	2	岩本 里織	神戸市看護大学
	3	上野 昌江	関西医科大学
	4	大川 聡子	関西医科大学
	5	岡本 玲子	大阪大学大学院
	6	蔭山 正子	大阪大学高等共創研究院
	7	合田 加代子	甲南女子大学
	8	河野 あゆみ	大阪公立大学
	9	小西 かおる	大阪大学大学院
	10	塩見 美抄	京都大学大学院
	11	都筑 千景	大阪公立大学大学院
	12	横山 美江	大阪公立大学大学院
中国・四国 (定数:7 人)	1	入野 了士	愛媛県立医療技術大学
	2	牛尾 裕子	山口大学大学院
	3	田中 美延里	愛媛県立医療技術大学
	4	富田 早苗	川崎医療福祉大学
	5	永井 眞由美	安田女子大学
	6	西嶋 真理子	愛媛大学大学院
	7	矢庭 さゆり	新見公立大学

ブロック	No.	氏 名	代議員選挙告示時の所属
九州・沖縄 (定数:6 人)	1	尾形 由起子	福岡県立大学
	2	川崎 涼子	長崎大学
	3	鳩野 洋子	九州大学大学院
	4	平野 かよ子	宮崎県立看護大学
	5	松尾 和枝	福岡女学院看護大学
	6	村嶋 幸代	大分県立看護科学大学

3. 2022 年度役員選挙

1) 開票結果

有権者数		70 人	
投票者数		59 人	
投 票 率		84.28%	
投票数	—	理 事 (投票上限人数 5 人)	監 事 (投票上限人数 2 人)
	有効票	292 票	116 票
	白 票	3 票	02 票
	有効票＋白票	295 票	118 票

2023 年 1 月 27 日開票

2) 当選理事一覧 (定数 : 12 人)

(敬称略・50 音順)

No.	氏 名	役員選挙告示時の所属
1	麻原 きよみ	聖路加国際大学
2	大森 純子	東北大学大学院
3	岡本 玲子	大阪大学大学院
4	蔭山 正子	大阪大学高等共創研究院
5	岸 恵美子	東邦大学大学院
6	河野 あゆみ	大阪公立大学
7	小西 かおる	大阪大学大学院
8	佐藤 紀子	千葉県立保健医療大学
9	田口 敦子	慶應義塾大学
10	田村 須賀子	富山大学
11	永田 智子	慶應義塾大学
12	鳩野 洋子	九州大学大学院

3) 監事一覧 (定数 : 2 人)

(敬称略・50 音順)

No.	氏 名	役員選挙告示時の所属
1	荒木田美香子	川崎市立看護大学
2	宮崎 美砂子	千葉大学大学院

一般社団法人日本地域看護学会 2022年度収支計算書

自 2022年 4月 1日
至 2023年 3月 31日

I. 一般会計

1. 収 入

(単位:円)

項 目	2022年度 予 算	2022年度 決 算	差 異 (収入減 △)	備 考
1 年会費	13,800,000	13,510,000	△ 290,000	10,000円×1,351件 2021年度分: 1,323/1,414人 (入金率93.6%) 過年度分: 28件
2 入会金	500,000	520,000	20,000	5,000円×104件
3 寄付金	0	0	0	
4 第25回学術集会	10,730,000	10,379,018	△ 350,982	助成金1,620,000円を含む
5 委員会セミナー参加費	500,000	684,000	184,000	研究活動推進委員会セミナー参加費
6 投稿料	200,000	140,000	△ 60,000	5,000円×28件
7 将来事業準備資金取崩	0	0	0	
8 雑収入	10,100	19,217	9,117	
(1) 利息	100	175	75	受取利息
(2) 著作権使用料	10,000	13,150	3,150	医学中央雑誌刊行会: 9,240円、学術著作権協 会: 3,910円
(3) その他	0	5,892	5,892	学会誌売上等
(A) 当期収入合計	25,740,100	25,252,235	△ 487,865	
前期繰越金	26,387,221	26,387,221	0	
(B) 合 計	52,127,321	51,639,456	△ 487,865	

2. 支 出

(単位:円)

項 目	2022年度 予 算	2022年度 決 算	差 異 (支出増 △)	備 考
事業費支出				
1 第25回学術集会	11,730,000	11,896,888	△ 166,888	
2 理事会セミナー	50,000	101,685	△ 51,685	講師謝金: 55,685円、動画撮影・編集費: 46,000円
3 会員報告会	50,000	57,420	△ 7,420	
4 研究論文表彰費	150,000	125,510	24,490	論文賞副賞: 110,000円、賞状等: 15,510円
5 学会誌	4,050,000	2,845,150	1,204,850	第25巻第1号、第2号、第3号
(1) 製作費	3,900,000	2,770,350	1,129,650	
(2) J-STAGE掲載作業費	150,000	74,800	75,200	
6 委員会活動費	2,770,000	1,865,640	904,360	
(1) 編集委員会	1,000,000	369,822	630,178	委員会開催費(3回)、拡大編集委員会開催費(1回)等
(2) 研究活動推進委員会	670,000	744,546	△ 74,546	委員会開催費(2回)、委員会セミナー開催費
(3) 広報委員会	200,000	216,127	△ 16,127	委員会開催費(3回)、アンケート調査実施費用
(4) 教育委員会	200,000	132,000	68,000	委員会開催費(3回)、地域看護学の図式化費用
(5) 国際交流推進委員会	200,000	225,005	△ 25,005	委員会開催費(1回)、NL No.22作成費・執筆料
(6) 表彰論文選考委員会	100,000	0	100,000	委員会開催費(1回)
(7) 災害支援のあり方検討委員会	200,000	96,060	103,940	委員会開催費(2回)、ワークショップ開催費
(8) 実践促進委員会	100,000	70,176	29,824	委員会開催費(5回)、ヒアリング調査実施費用
(9) 次世代育成推進委員会	100,000	11,904	88,096	委員会開催費(4回)、トークチャンネル講師謝金等
7 選挙運営費	650,000	589,192	60,808	代議員選挙・役員選挙運営費
(1) 選挙管理等受付管理費	220,000	220,000	0	
(2) 代議員選挙運営費	350,000	337,746	12,254	
(3) 役員選挙運営費	50,000	31,446	18,554	
(4) 選挙管理委員会会議費	30,000	0	30,000	
8 諸会費	100,000	100,000	0	
(1) 日本看護系学会協議会	80,000	80,000	0	2022年度会費
(2) 全国公衆衛生関連学協会連絡協議会	20,000	20,000	0	2022年度会費
9 雑費	1,350,000	0	1,350,000	
事業費小計	20,900,000	17,581,485	3,318,515	

項 目	2022年度 予 算	2022年度 決 算	差 異 (支出増 △)	備 考
管理費支出				
1 会議費	250,000	100,310	149,690	
(1) 理事会	200,000	89,310	110,690	理事会(3回)、臨時理事会(2回)、Web会議費用を含む
(2) 社員総会	50,000	11,000	39,000	社員総会(1回)
2 交通・宿泊費	400,000	22,148	377,852	
3 印刷費	400,000	339,139	60,861	会議資料・封筒・年会費請求書等印刷費
4 発送費	400,000	398,854	1,146	年会費請求書・入会通知等発送費
5 ホームページ管理費	400,000	396,000	4,000	
6 業務委託費	3,500,000	3,496,970	3,030	
7 租税公課	70,000	70,000	0	法人税
8 雑費	120,000	33,033	86,967	
(1) 振込手数料	40,000	33,033	6,967	
(2) その他	80,000	0	80,000	
管理費小計	5,540,000	4,856,454	683,546	
資産積立支出				
1 将来事業準備資金積立金	0	0	0	
資産積立支出小計	0	0	0	
(C) 当期支出合計	26,440,000	22,437,939	4,002,061	
(A・C) 当期収支差額	△ 699,900	2,814,296	△ 3,514,196	
(B・C) 次期繰越金	25,687,321	29,201,517	△ 3,514,196	

Ⅱ．積立金

将来事業準備資金

(単位:円)

収 入	支 出	備 考
前期繰越金 702,564	取崩 0	
繰入 0	次期繰越金 702,569	
受取利息 5		
収入合計 702,569	支出合計 702,569	

一般会計次期繰越 29,201,517

積立金次期繰越金 702,569

正味財産 29,904,086

財 産 目 録

令和 5 年 3 月 31 日現在 (決算)

法人名：一般社団法人日本地域看護学会

事業名：事業全体

(単位： 円)

貸 借 対 照 表 科 目	場 所 ・ 物 量 等	使 用 目 的 等	金 額
(流動資産)			
普通預金 (事務センター)	三菱UF J 銀行	一般会計/学会運転資金	28,282,037
郵便振替 (年会費等)	ゆうちょ銀行	一般会計/翌事業年度計上年会費等	3,114,450
普通預金 (第26回学術集会連立資金)	三菱UF J 銀行	一般会計/第26回学術集会連立資金	2,390,006
普通預金 (将来事業準備資金)	三菱UF J 銀行	積立金/将来事業準備資金	702,569
前払金	三菱UF J 銀行	一般会計/2023年度計上会議費	51,480
前払金 (第26回学術集会連立資金)	三菱UF J 銀行	一般会計/第26回学術集会連立資金	10,000
流動資産合計			34,550,542
資産合計			34,550,542
(流動負債)			
未払金	三菱UF J 銀行	一般会計/教育委員会活動費	132,000
前受金 (年会費等)	ゆうちょ銀行	一般会計/翌事業年度計上年会費等	3,114,450
前受金 (第26回学術集会連立資金)	三菱UF J 銀行	一般会計/第26回学術集会連立資金	1,400,006
流動負債合計			4,646,456
負債合計			4,646,456
正味財産			29,904,086

貸 借 対 照 表

令和 5 年 3 月 31 日現在（決算）

法人名：一般社団法人日本地域看護学会

事業名：事業全体

（単位：円）

科 目	当 年 度	前 年 度	増 減
I 資産の部			
流動資産			
現金預金	34,489,062	30,465,760	4,023,302
普通預金（事務センター）	28,282,037	24,144,541	4,137,496
郵便振替（年会費等）	3,114,450	3,044,602	69,848
普通預金（第25回学術集会運転資金）	0	2,138,163	△2,138,163
普通預金（第25回学術集会参加費）	0	435,890	△435,890
普通預金（第26回学術集会運転資金）	2,390,006	0	2,390,006
普通預金（将来事業準備資金）	702,569	702,564	5
前払金	51,480	0	51,480
前払金（第25回学術集会運転資金）	0	1,294,518	△1,294,518
前払金（第26回学術集会運転資金）	10,000	0	10,000
流動資産合計	34,550,542	31,760,278	2,790,264
資産合計	34,550,542	31,760,278	2,790,264
II 負債の部			
流動負債			
未払金	132,000	0	132,000
前受金（年会費等）	3,114,450	3,044,602	69,848
前受金（第25回学術集会運転資金）	0	1,625,891	△1,625,891
前受金（第26回学術集会運転資金）	1,400,006	0	1,400,006
流動負債合計	4,646,456	4,670,493	△24,037
負債合計	4,646,456	4,670,493	△24,037
III 正味財産の部			
一般正味財産	29,904,086	27,089,785	2,814,301
正味財産合計	29,904,086	27,089,785	2,814,301
負債及び正味財産合計	34,550,542	31,760,278	2,790,264

監査報告書

2023 年 4 月 23 日

一般社団法人日本地域看護学会

理事長 宮 崎 美砂子 殿

一般社団法人日本地域看護学会

監 事 佐伯 和子



私監事は、一般社団法人日本地域看護学会の 2022 年 4 月 1 日から 2023 年 3 月 31 日までの 2022 年度における業務及び会計の監査を行い、次のとおり報告します。

1. 監査の方法の概要

- (1) 業務監査については、理事会その他の重要な会議に出席し、理事等からその職務の執行について報告を受け、関係書類の閲覧など必要と認められる監査手続きを実施することによって業務執行の妥当性を検討した。
- (2) 会計監査については、会計帳票及び関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続きを用いて、財務諸表及び収支計算書の正確性を検討した。
- (3) 監査は対面および書面により実施した。監事 1 人ずつが署名・捺印した監査報告書を 2 枚作成した。

2. 監査結果

(1) 業務等の監査結果

- ①事業報告は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。
- ②理事の職務の執行に関する不正の行為または法令若しくは定款に違反する重大な事実は認められません。

(2) 計算書類及びその附属明細書並びに財産目録の監査結果

計算書類及びその附属明細書並びに財産目録は、一般社団法人日本地域看護学会の財産及び損益の状況を全て重要な点において適正に示しているものと認めます。

監査報告書

2023 年 5 月 2 日

一般社団法人日本地域看護学会

理事長 宮 崎 美砂子 殿

一般社団法人日本地域看護学会

監 事 村嶋 幸代 

私監事は、一般社団法人日本地域看護学会の 2022 年 4 月 1 日から 2023 年 3 月 31 日までの 2022 年度における業務及び会計の監査を行い、次のとおり報告します。

1. 監査の方法の概要

- (1) 業務監査については、理事会その他の重要な会議に出席し、理事等からその職務の執行について報告を受け、関係書類の閲覧など必要と認められる監査手続きを実施することによって業務執行の妥当性を検討した。
- (2) 会計監査については、会計帳票及び関係書類の閲覧など必要と思われる監査手続きを用いて、財務諸表及び収支計算書の正確性を検討した。
- (3) 監査は対面および書面により実施した。監事 1 人ずつが署名・捺印した監査報告書を 2 枚作成した。

2. 監査結果

(1) 業務等の監査結果

- ①事業報告は、法令及び定款に従い、法人の状況を正しく示しているものと認めます。
- ②理事の職務の執行に関する不正の行為または法令若しくは定款に違反する重大な事実はありません。

(2) 計算書類及びその附属明細書並びに財産目録の監査結果

計算書類及びその附属明細書並びに財産目録は、一般社団法人日本地域看護学会の財産及び損益の状況を全て重要な点において適正に示しているものと認めます。

2022 年度における事業及び会計の監査における監事所見

2022 年度における事業及び会計の監査報告については、別紙監査報告書のとおりです。以下、補足として監事からの所見を述べます。

会員数の経年推移をみると、前年比 99%の状況が数年にわたり続いています。2017 年度総会時の 1,441 人に比して 2022 年度は 1,396 人と 45 名減であり、会員数の減少は大きな課題です。

そのために本学会がまずやるべきことは、日本地域看護学会として何を目指し、どのような地域看護の活動を範囲としてどのような学問を創っていくつもりなのか、さらに、どういう人をターゲットに学会の拡大を図ろうとするのか、学会の方向性を明確に示すことだと考えます。

そのうえで、より多くの会員の方に参加してもらえるような学術集会を企画することや、論文の投稿数を増やして学会誌の充実をはかること等、本来の事業活動の向上を目指しつつ、実践促進委員会や次世代育成推進委員会をはじめとした、新たな活動に取り組んでいくことを望みます。

管理面では、使用機会がなくなった金融機関の口座を見直す等、事業の状況の変化に応じた適切な会計管理を心がけてください。

また、Web 会議が恒常的な会議方法の 1 つとして定着し、理事会を効率よく進めることが可能になりました。今後は、対面による会議の特性も活かし、重要な事項には時間をかけて、十分に検討・審議していただきたいと思います。

本所見が本学会の運営に寄与し、発展につながることを期待します。

一般社団法人日本地域看護学会 2023年度事業計画書(案)

1. 理事会を4回以上および監査会議を1回以上開催する。
2. 社員総会を1回開催する。
3. 会員報告会を1回開催する。
4. 第26回学術集会を開催する。
5. 第26回学術集会時に理事会セミナーを実施する。
6. 日本地域看護学会誌第26巻第1号、第2号、第3号を電子体で発行する。
7. 地域看護学に関する研究活動を推進する。
8. 地域看護学に関する広報活動を強化する。
9. 地域看護学に関する教育を推進する。
10. 地域看護学に関する国際的な交流を行い、英文ニュースレターを年1回発行する。
11. 日本地域看護学会表彰制度を運営する。
12. 災害に対する支援のあり方を検討する。
13. 地域看護学における実践活動を促進する。
14. 地域看護学における次世代育成を推進する。
15. 看護系学会・公衆衛生関連学協会との連携を進め、活動に参画する。
16. 地域看護学の再定義を踏まえ、関連学会との連携による地域看護学の概念整理等を行う。
17. その他必要な事業を行う。

一般社団法人日本地域看護学会 2024年度事業計画書(案)

1. 理事会を4回以上および監査会議を1回以上開催する。
2. 社員総会を1回開催する。
3. 会員報告会を1回開催する。
4. 第27回学術集会を開催する。
5. 第27回学術集会時に理事会セミナーを実施する。
6. 日本地域看護学会誌第27巻第1号、第2号、第3号を電子体で発行する。
7. 地域看護学に関する研究活動を推進する。
8. 地域看護学に関する広報活動を強化する。
9. 地域看護学に関する教育を推進する。
10. 地域看護学に関する国際的な交流を行い、英文ニュースレターを年1回発行する。
11. 日本地域看護学会表彰制度を運営する。
12. 災害に対する支援のあり方を検討する。
13. 地域看護学における実践活動を促進する。
14. 地域看護学における次世代育成を推進する。
15. 看護系学会・公衆衛生関連学協会との連携を進め、活動に参画する。
16. 地域看護学の再定義を踏まえ、関連学会との連携による地域看護学の概念整理等を行う。
17. 役員選挙を行う。
18. その他必要な事業を行う。

ユース会員設置に伴う定款の変更について

【趣旨】本学会の活性化を図るために、より早い時期に会員になってもらえるよう会員にユース会員を加える。

【定義】ユース会員は、大学や短期大学、専修学校に在籍する者とする。

※ 大学院生（博士課程（前期・後期））は、従来どおり正会員とする。

【入会金及び会費】ユース会員は、入会金は免除、年会費は正会員の半額とする。

【特典】ユース会員が卒業後、継続して正会員となる場合は、入会金は免除する。

【その他定款に関わること】

ユース会員は、定款第 11 条の代議員定数には含めず、代議員の選任には関与しない。

定款の変更（案）

変更前	変更後
第2章 社 員 (会員) 第 5 条 この法人の会員は次のとおりとする。 (1) 正 会 員 この法人の目的に賛同して入会した個人 (2) 賛助会員 この法人の事業を賛助するため入会した個人または団体 (3) 名誉会員 この法人に多大な寄与をした者の中から、理事長が理事会の議を得て社員総会に推薦し、その承認が得られた者	第2章 社 員 (会員) 第 5 条 この法人の会員は次のとおりとする。 (1) 正 会 員 この法人の目的に賛同して入会した個人 (2) <u>ユース会員</u> <u>この法人の目的に賛同して入会した個人のうち、大学、短期大学及び専修学校に在学する者</u> (3) 賛 助 会 員 この法人の事業を賛助するため入会した個人または団体 (4) 名 誉 会 員 この法人に多大な寄与をした者の中から、理事長が理事会の議を得て社員総会に推薦し、その承認が得られた者
(入会) 第 6 条 正会員及び賛助会員として入会しようとする者は、入会申込書を理事長に提出し、理事会の承認を得なくてはならない。 2. 名誉会員に関する規程は、別に定める。	(入会) 第 6 条 正会員、<u>ユース会員</u>及び賛助会員として入会しようとする者は、入会申込書を理事長に提出し、理事会の承認を得なくてはならない。 2. 名誉会員に関する規程は、別に定める。
(入会金及び会費) 第 9 条 正会員及び賛助会員となった個人又は団体は、総会の決議を経て別に定める入会金及び会費を納入しなければならない。 2. 会員がすでに納入した入会金、年会費及びその他の拠出金品は、これを返還しない。	(入会金及び会費) 第 9 条 正会員、<u>ユース会員</u>及び賛助会員となった個人又は団体は、総会の決議を経て別に定める入会金及び会費[＊])を納入しなければならない。 2. 会員がすでに納入した入会金、年会費及びその他の拠出金品は、これを返還しない。

＊) 別に定める入会金及び会費

正 会 員：入会金 5,000 円、年会費 10,000 円

ユース会員：入会金 0 円、年会費 5,000 円

賛 助 会 員：入会金 10,000 円、年会費 30,000 円

特典：ユース会員：継続して正会員となる場合、入会金は免除される。

賛 助 会 員：賛助会員となる団体名（社名）は、学会のホームページに「賛助会員」として記され、リンクを貼ることができる。また、年次学術集会に、団体（社）のメンバー（社員）1 名は無料で参加することができる。

一般社団法人日本地域看護学会 2023年度収支予算書(案)

自 2023年 4月 1日
至 2024年 3月 31日

I. 一般会計

1. 収 入

(単位:円)

項 目	2023年度 予 算	2022年度 予 算	2022年度 決 算	備 考
1 年会費	13,900,000	13,800,000	13,510,000	正会員10,000円×1,380人(入金率94%程度) ユース会員5,000円×20人
2 入会金	500,000	500,000	520,000	5,000円×100人
3 寄付金	0	0	0	
4 第26回学術集会	13,070,000	10,730,000	10,379,018	
5 委員会セミナー参加費	500,000	500,000	684,000	研究活動推進委員会セミナー参加費
6 投稿料	200,000	200,000	140,000	5,000円×40件
7 将来事業準備資金取崩	0	0	0	
8 雑収入	10,100	10,100	19,217	
(1) 利息	100	100	175	
(2) 著作権使用料	10,000	10,000	13,150	
(3) その他	0	0	5,892	
(A) 当期収入合計	28,180,100	25,740,100	25,252,235	
前期繰越金	29,201,517	26,387,221	26,387,221	
(B) 合 計	57,381,617	52,127,321	51,639,456	

2. 支 出

(単位:円)

項 目	2023年度 予 算	2022年度 予 算	2022年度 決 算	備 考
事業費支出				
1 第26回学術集会	14,070,000	11,730,000	11,896,888	
2 理事会セミナー	50,000	50,000	101,685	
3 会員報告会	50,000	50,000	57,420	
4 研究論文表彰費	150,000	150,000	125,510	論文賞副賞:110,000円、その他:40,000円
5 学会誌	4,050,000	4,050,000	2,845,150	第26巻第1号、第2号、第3号
(1) 製作費	3,900,000	3,900,000	2,770,350	
(2) J-STAGE掲載作業費	150,000	150,000	74,800	
6 委員会活動費	2,800,000	2,770,000	1,865,640	
(1) 編集委員会	1,000,000	1,000,000	369,822	拡大編集委員会開催費(1回)を含む
(2) 研究活動推進委員会	500,000	670,000	744,546	セミナー開催費(1回)を含む
(3) 広報委員会	300,000	200,000	216,127	
(4) 教育委員会	300,000	200,000	132,000	
(5) 国際交流推進委員会	200,000	200,000	225,005	NL No.23作成費を含む
(6) 表彰論文選考委員会	100,000	100,000	0	
(7) 災害支援のあり方検討委員会	200,000	200,000	96,060	
(8) 実践促進委員会	100,000	100,000	70,176	
(9) 次世代育成推進委員会	100,000	100,000	11,904	
7 選挙運営費	0	650,000	589,192	
(1) 選挙管理等受付管理費	0	220,000	220,000	
(2) 代議員選挙運営費	0	350,000	337,746	
(3) 役員選挙運営費	0	50,000	31,446	
(4) 選挙管理委員会会議費	0	30,000	0	
8 諸会費	100,000	100,000	100,000	
(1) 日本看護系学会協議会	80,000	80,000	80,000	
(2) 全国公衆衛生関連学協会連絡協議会	20,000	20,000	20,000	
9 雑費	50,000	1,350,000	0	
事業費小計	21,320,000	20,900,000	17,581,485	

項 目	2023年度 予 算	2022年度 予 算	2022年度 決 算	備 考
管理費支出				
1 会議費	250,000	250,000	100,310	
(1) 理事会	200,000	200,000	89,310	監査会議費・Web会議費用を含む
(2) 社員総会	50,000	50,000	11,000	Web会議費用を含む
2 交通・宿泊費	1,100,000	400,000	22,148	
3 印刷費	400,000	400,000	339,139	封筒・請求書作成費等
4 発送費	400,000	400,000	398,854	年会費請求書等
5 ホームページ管理費	400,000	400,000	396,000	
6 業務委託費	3,500,000	3,500,000	3,496,970	
7 租税公課	70,000	70,000	70,000	法人税
8 雑費	120,000	120,000	33,033	
(1) 振込手数料	40,000	40,000	33,033	振込手数料・振替通知書発行手数料
(2) その他	80,000	80,000	0	登記変更費等
管理費小計	6,240,000	5,540,000	4,856,454	
資産積立支出				
1 将来事業準備資金積立金	0	0	0	
資産積立支出小計	0	0	0	
(C) 当期支出合計	27,560,000	26,440,000	22,437,939	
(A・C) 当期収支差額	620,100	△ 699,900	2,814,296	
(B・C) 次期繰越金	29,821,617	25,687,321	29,201,517	

Ⅱ．積立金

将来事業準備資金

(単位:円)

収 入	支 出	備 考
前年度繰越金 702,564	取崩 0	
繰入 0	次年度繰越金 702,564	
受取利息 0		
収入合計 702,564	支出合計 702,564	

一般社団法人日本地域看護学会 2023～2024 年度役員候補者一覧

1. 理 事

(敬称略・50 音順)

No.	氏 名	所 属
1	秋山 正子*	株式会社ケアーズ白十字訪問看護ステーション
2	麻原 きよみ	聖路加国際大学
3	石田 千絵*	日本赤十字看護大学
4	大森 純子	東北大学大学院
5	岡本 玲子	大阪大学大学院
6	蔭山 正子	大阪大学高等共創研究院
7	岸 恵美子	東邦大学大学院
8	河野 あゆみ	大阪公立大学
9	小西 かおる	大阪大学大学院
10	小林 真朝*	聖路加国際大学
11	佐藤 紀子	千葉県立保健医療大学
12	田口 敦子	慶應義塾大学
13	田村 須賀子	富山大学
14	永田 智子	慶應義塾大学
15	鳩野 洋子	九州大学大学院
16	三森 寧子*	千葉大学

*：推薦理事

2. 監 事

(敬称略・50 音順)

No.	氏 名	所 属
1	荒木田美香子	川崎市立看護大学
2	宮崎 美砂子	千葉大学大学院

一般社団法人日本地域看護学会 名誉会員候補者

※敬称略

No.	氏 名	所 属
1	平野 かよ子	宮崎県立看護大学 名誉教授

推薦理由：

第 9 回学術集会長（2006 年）をはじめ、理事を 3 期 9 年間、監事を 3 期 7 年間務められる等、本学会の発展にご尽力いただいた。

日本地域看護学会誌 論文投稿に関する不正行為防止のためのガイドライン

本ガイドラインは、一般社団法人日本地域看護学会（以下、本学会という）が発行する日本地域看護学会誌（以下、本誌という）への不正行為の抑止を図り、本誌の学術性と社会的信頼性を確保することを目的とする。

1. 投稿に関する不正行為の定義

本ガイドラインにおいて「不正行為」とは、「研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン」（文部科学省，2014）で特定不正行為と定義されている，捏造，改ざん，盗用とする。また，「不適切な行為」を，多重投稿，分割投稿，不適切なオーサiership，その他の不適切な行為とする。

1) 不正行為

不正行為は，故意又は研究者としてわきまえるべき基本的な注意義務を著しく怠ったことによる，投稿論文など発表された研究成果の中に示されたデータや調査結果等の捏造，改ざん及び盗用である（文部科学省，2014）。

(1) 捏 造

存在しないデータ，研究結果等を作成すること。

(2) 改ざん

研究資料・機器・過程を変更する操作を行い，データ，研究活動によって得られた結果等を真正でないものに加工すること。

(3) 盗 用

他の研究者のアイディア，分析・解析方法，データ，研究結果，論文又は用語を当該研究者の了解又は適切な表示なく流用すること。

2) 不適切な行為

(1) 多重投稿

多重投稿とは，同一内容の原稿を，同一言語，複数言語にかかわらず，同時に，複数の雑誌に投稿することである（日本医学会日本医学雑誌編集者会議，2022）。

本誌投稿規程 2「投稿原稿の内容」において，「投稿原稿は，その内容が過去に他誌に掲載，あるいは現在も掲載が予定されていないものに限る。」としており，多重投稿を禁止している。また，同じ研究成果の多重投稿は，適切な引用がされていない場合，自己盗用とみなされることがある。

ただし，以下の発表は，本誌投稿時に申告および論文に明示している場合，多重投稿とはみなされない。

- ・学会発表の抄録やポスター発表などの予備的報告
- ・大学の学位論文（機関リポジトリに全文公開している論文を除く）
- ・学会で発表しただけで完全な報告がなされていない研究や，記録集（proceedings）に掲載されている内容を論文としてまとめた原稿

(2) 分割投稿

1つの論文で報告できる内容を複数の論文に分割して投稿すること。

(3) 不適切なオーサiership

本誌投稿規程 5「著者資格（Authorship）」において，「著者とは，投稿原稿に重要な知的貢献をした者とし，研究の着想，デザイン，データの入手，分析，解釈に重要な貢献をしていることに加え，投稿原稿の作成に関与し，内容について責任を負い，研究への十分な参加をしていることとする。」としている。この基準に該当しない貢献者は，謝辞に記載する。

(4) その他の不適切な行為

- ・日本地域看護学会倫理綱領に反する倫理的に問題が認められる行為
- ・著作権を侵害する行為 など

2. 本ガイドラインの適用対象

本ガイドラインの適用は、原則、制定後に本誌に投稿された論文とする。ただし、制定以前に本誌に投稿され、すでに掲載された論文であっても、明らかな不正行為やその疑いなどが判明した場合は、本ガイドラインの適用対象とする。

3. 審議手順

- 1) 本ガイドラインが適用対象となる事案が発生した場合は、本学会編集委員会が審査を行い、その結果に基づき理事会において対応を決定する。編集委員会において審査に当たる者は、編集委員の中から COI 関係にない者を編集委員長（編集委員長が COI 関係にある場合は副編集委員長）が選ぶ。ただし、編集委員の中で不足のある場合は、本学会員の中から適切な者を選ぶことができる。
- 2) 本ガイドラインの適用対象となる事案が発生した際は、基本的に Committee on Publication Ethics(COPE, 出版倫理委員会)から公表されている手順に従う。具体的には、投稿原稿に多重発表の疑いがある場合、掲載論文に多重発表の疑いがある場合、投稿原稿に盗用の疑いがある場合、掲載論文に盗用の疑いがある場合、投稿原稿にデータ捏造の疑いがある場合、掲載論文にデータ捏造の疑いがある場合、ゴーストオーサiership・ゲストオーサiership・ギフトオーサiershipの疑いがある場合の対応などに準ずる。編集委員による審査結果をもとに理事会にて最終審議を行う。
- 3) 理事会における審議の結果、不正行為が認められると判断された場合、本学会は、掲載前の論文については投稿論文の受け付けおよび掲載決定を撤回し、すでに掲載済みの論文については掲載を撤回する。これらの決定事項は、理事長名にて著者全員に通知する。
- 4) 理事会における審議の結果、不正行為とは認められないが、すでに掲載された論文内に誤りが見つかった際、誤りによって論文の結果、解釈、結論の方向性や有意性が変わらない場合、本学会は訂正の掲載にて対応する。すでに掲載された論文内の誤りが深刻な場合や訂正で対応できない場合は、本学会は当該論文を撤回する。論文の訂正および撤回の決定は、理事長名にて著者全員に通知する。
- 5) 不服申し立てがある場合は、理事長名の通知から 2 週間以内に、任意の文書にて理事長宛てにその旨を提出する。
- 6) 不服申し立ての審議は理事会に付託する。COI 関係にない理事間による審議を経て決定した事項について理事長名で不服申し立て申請者に通知する。

4. 守秘義務

不正行為および不適切な行為への対応に携わるものは、対応に関連したすべての事項について知りえた情報を他に漏らしてはならない。

引用文献

Committee on Publication Ethics(COPE, 出版倫理委員会) : Flowcharts: Japanese.
<https://doi.org/10.24318/cope.2019.2.34>

Committee on Publication Ethics(COPE, 出版倫理委員会) : Retraction guidelines.
<https://doi.org/10.24318/cope.2019.1.4>

International Committee of Medical Journal Editors (ICMJE, 医学雑誌編集者国際委員会)(2022) : Recommendations for the Conduct, Reporting, Editing, and Publication of Scholarly work in Medical Journals, Updated May 2022.
<http://www.icmje.org/recommendations/>

文部科学省（2014）：研究活動における不正行為への対応等に関するガイドライン．平成 26 年 8 月 26 日 文部科学大臣決定，

https://www.mext.go.jp/b_menu/houdou/26/08/_icsFiles/afieldfile/2014/08/26/1351568_02_1.pdf

日本医学会日本医学雑誌編集者会議(2022)：日本医学会医学雑誌編集ガイドライン 2022.

https://jams.med.or.jp/guideline/jamje_2022.pdf

参考文献

研究者の公正な研究活動の確保に関する調査検討委員会（2012）：研究者の公正な研究活動の確保に関する調査検討委員会報告書，

https://www.tohoku.ac.jp/japanese/newimg/pressimg/press20120124_01_1.pdf

承認年月日：2023 年 5 月 14 日（2023 年度第 1 回理事会）

一般社団法人日本地域看護学会 2021～2022 年度役員名簿

理 事 長

宮崎 美砂子（千葉大学大学院）

副理事長

荒木田美香子（川崎市立看護大学）

田高 悦子（北海道大学大学院）

理 事

秋山 正子（㈱ケアーズ白十字訪問看護ステーション） 岸 恵美子（東邦大学大学院）

石橋 みゆき（千葉大学大学院） 北山 三津子（岐阜県立看護大学）

石丸 美奈（千葉大学大学院） 小西 かおる（大阪大学大学院）

大木 幸子（杏林大学） 田村 須賀子（富山大学）

大森 純子（東北大学大学院） 永田 智子（慶應義塾大学）

蔭山 正子（大阪大学高等共創研究院） 春山 早苗（自治医科大学）

監 事

佐伯 和子（富山県立大学）

村嶋 幸代（大分県立看護科学大学）

一般社団法人日本地域看護学会 2019～2022 年度社員名簿

代 議 員

秋山 正子 (㈱ケアーズ白十字訪問看護ステーション)	河野 あゆみ (大阪公立大学大学院)
麻原 きよみ (聖路加国際大学)	小西 かおる (大阪大学大学院)
荒木田美香子 (川崎市立看護大学)	斉藤 恵美子 (東京都立大学大学院)
有本 梓 (横浜市立大学大学院)	佐伯 和子 (富山県立大学)
安齋 由貴子 (宮城大学)	佐藤 紀子 (千葉県立保健医療大学)
石垣 和子 (石川県立看護大学)	佐藤 由美 (群馬大学大学院)
石田 千絵 (日本赤十字看護大学)	田高 悦子 (北海道大学大学院)
石橋 みゆき (千葉大学大学院)	巽 あさみ (人間環境大学大学院)
石原 多佳子 (岐阜聖徳学園大学)	田中 美延里 (愛媛県立医療技術大学)
石丸 美奈 (千葉大学大学院)	田村 須賀子 (富山大学)
和泉 京子 (武庫川女子大学)	都筑 千景 (大阪公立大学大学院)
和泉 比佐子 (神戸大学大学院)	永田 智子 (慶應義塾大学)
井手 知恵子 (大分大学)	西嶋 真理子 (愛媛大学大学院)
岩本 里織 (神戸市看護大学)	鳩野 洋子 (九州大学大学院)
上野 昌江 (四天王寺大学)	春山 早苗 (自治医科大学)
上野 まり (日本在宅ケア教育研究センター)	平澤 則子 (長岡崇徳大学)
大木 幸子 (杏林大学)	平野 かよ子 (宮崎県立看護大学 名誉教授)
大澤 真奈美 (群馬県立県民健康科学大学)	平野 美千代 (北海道大学大学院)
大森 純子 (東北大学大学院)	松尾 和枝 (福岡女学院看護大学)
尾形 由起子 (福岡県立大学)	松下 光子 (岐阜県立看護大学)
岡本 玲子 (大阪大学大学院)	松田 宣子 (関西国際大学)
奥野 ひろみ (信州大学)	宮崎 美砂子 (千葉大学大学院)
表 志津子 (金沢大学)	村嶋 幸代 (大分県立看護科学大学)
蔭山 正子 (大阪大学高等共創研究院)	森 仁実 (岐阜県立看護大学)
門間 晶子 (名古屋市立大学)	守田 孝恵 (獨協医科大学)
金子 仁子 (東京情報大学)	安田 貴恵子 (長野県看護大学)
亀井 智子 (聖路加国際大学大学院)	矢庭 さゆり (新見公立大学)
川崎 涼子 (長崎大学)	山崎 洋子 (健康科学大学)
岸 恵美子 (東邦大学大学院)	吉田 礼維子 (天使大学)
北岡 英子 (湘南鎌倉医療大学)	両羽 美穂子 (上智大学)
北山 三津子 (岐阜県立看護大学)	